

受益者の皆様へ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。
さて、「ゴールドマン・サックス・世界債券オープン」は、このたび、Aコース／Bコースにつきましては、第36期の決算、Cコース／Dコースにつきましては、第162期～第167期の決算を行いました。本ファンドは、日本を含む世界各国の債券に分散投資することにより、信託財産の長期的な成長を図ることを目標として運用を行っております。今期の運用経過等について、以下のとおりご報告申し上げます。
今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

Aコース	第36期末(2016年6月7日)	第36期	
	基準価額	11,060円	騰落率 4.03%
	純資産総額	3,931百万円	分配金合計 60円
Bコース	第36期末(2016年6月7日)	第36期	
	基準価額	9,129円	騰落率 -5.38%
	純資産総額	4,020百万円	分配金合計 130円
Cコース	第167期末(2016年6月7日)	第162期～第167期	
	基準価額	10,595円	騰落率 4.14%
	純資産総額	1,285百万円	分配金合計 180円
Dコース	第167期末(2016年6月7日)	第162期～第167期	
	基準価額	10,780円	騰落率 -5.38%
	純資産総額	810百万円	分配金合計 180円

(注) 騰落率は収益分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

本ファンドは、約款において運用報告書(全体版)を電子交付することが定められております。運用報告書(全体版)は、下記の手順でご覧いただけます。なお、書面をご要望の場合は、販売会社までお問い合わせください。

〈閲覧方法〉

右記URLにアクセス⇒「ファンドラインナップ」より本ファンドを選択⇒「運用報告書(全体版)」を選択



交付運用報告書

ゴールドマン・サックス・世界債券オープン

Aコース(限定為替ヘッジ)
Bコース(為替ヘッジなし)
Cコース(毎月分配型、限定為替ヘッジ)
Dコース(毎月分配型、為替ヘッジなし)
追加型投信／内外／債券

Aコース／Bコース	第36期(決算日2016年6月7日)
Cコース／Dコース	第162期(決算日2016年1月7日)
	第163期(決算日2016年2月8日)
	第164期(決算日2016年3月7日)
	第165期(決算日2016年4月7日)
	第166期(決算日2016年5月9日)
	第167期(決算日2016年6月7日)

作成対象期間: 2015年12月8日～2016年6月7日

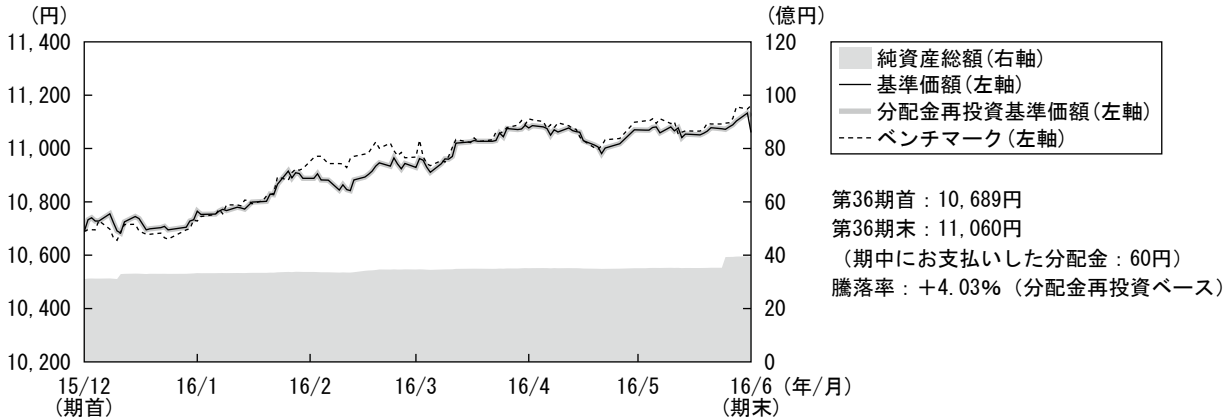
ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント

〒106-6147 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー
お問合せ先: 03-6437-6000(代表)
受付時間: 営業日の午前9時～午後5時 | www.gsam.co.jp

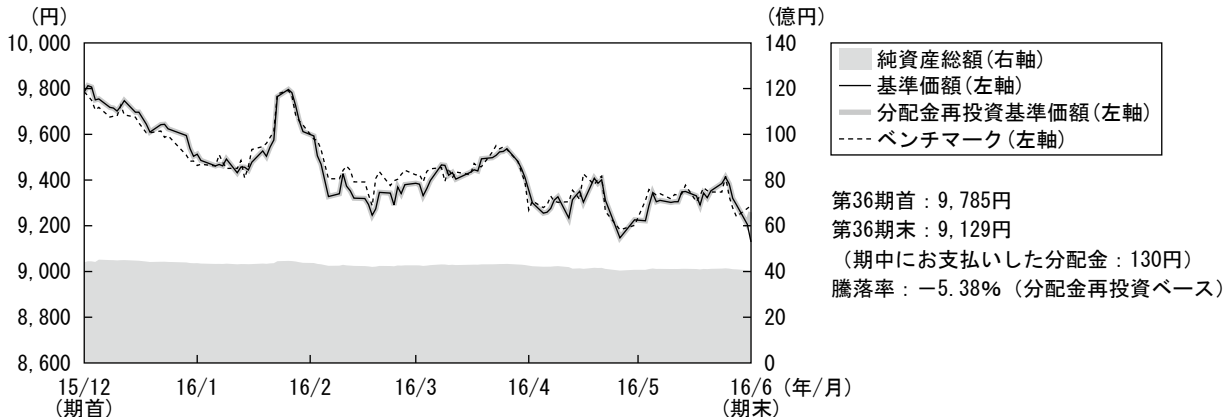
運用経過

■ 基準価額等の推移について（2015年12月8日～2016年6月7日）

○ゴールドマン・サックス・世界債券オープンAコース（限定為替ヘッジ）
（以下、「Aコース（限定為替ヘッジ）」といいます。）

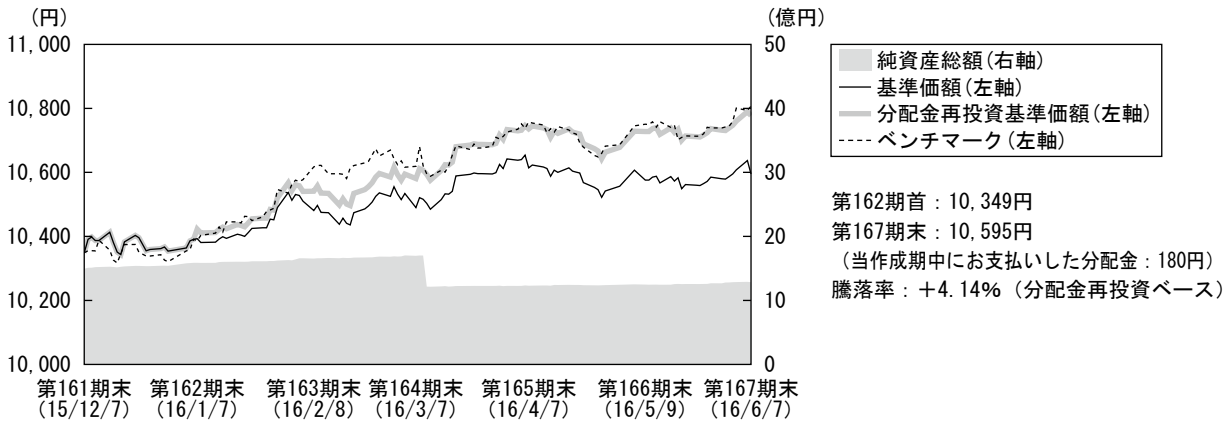


○ゴールドマン・サックス・世界債券オープンBコース（為替ヘッジなし）
（以下、「Bコース（為替ヘッジなし）」といいます。）

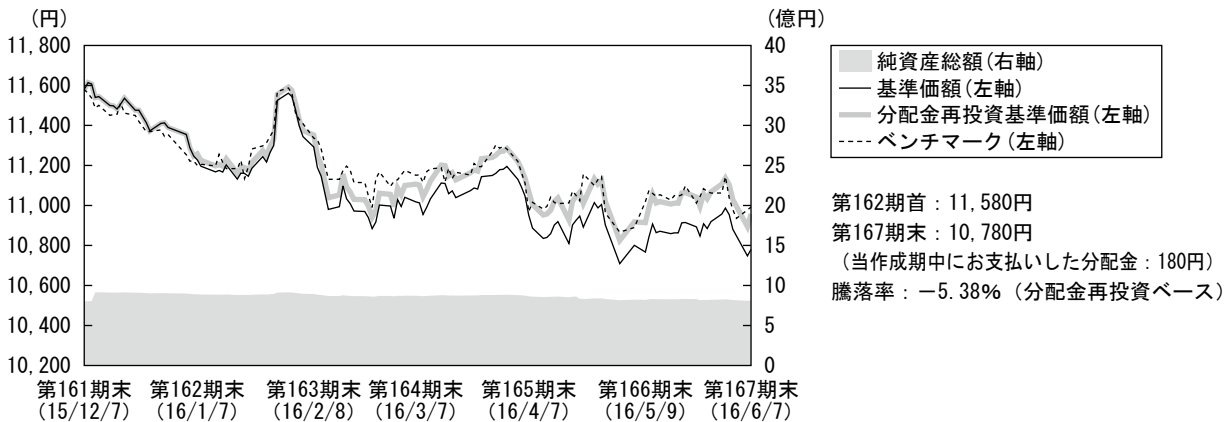


- （注1）Aコース（限定為替ヘッジ）のベンチマークはJ Pモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス（グローバル）（円ヘッジ・ベース）です。
- （注2）Bコース（為替ヘッジなし）のベンチマークはJ Pモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス（グローバル）（円ベース）です。
- （注3）分配金再投資基準価額は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- （注4）実際のファンドにおいては、分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なるため、お客さまの損益の状況を示すものではない点にご留意ください。
- （注5）分配金再投資基準価額、ベンチマークは、期首の基準価額を起点として指数化しています。

○ゴールドマン・サックス・世界債券オープンCコース（毎月分配型、限定為替ヘッジ）
（以下、「Cコース（毎月分配型、限定為替ヘッジ）」といいます。）



○ゴールドマン・サックス・世界債券オープンDコース（毎月分配型、為替ヘッジなし）
（以下、「Dコース（毎月分配型、為替ヘッジなし）」といいます。）



- （注1）Cコース（毎月分配型、限定為替ヘッジ）のベンチマークはJ Pモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス（グローバル）（円ヘッジ・ベース）です。
- （注2）Dコース（毎月分配型、為替ヘッジなし）のベンチマークはJ Pモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス（グローバル）（円ベース）です。
- （注3）分配金再投資基準価額は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- （注4）実際のファンドにおいては、分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なるため、お客さまの損益の状況を示すものではない点にご留意ください。
- （注5）分配金再投資基準価額、ベンチマークは、当作成期（以下、「当期」といいます。）の期首の基準価額を起点として指数化しています。

■ 基準価額の主な変動要因

- Aコース（限定為替ヘッジ）の基準価額は、期首の10,689円から371円上昇し、期末には11,060円となりました。
- Bコース（為替ヘッジなし）の基準価額は、期首の9,785円から656円下落し、期末には9,129円となりました。
- Cコース（毎月分配型、限定為替ヘッジ）の基準価額は、期首の10,349円から246円上昇し、期末には10,595円となりました。
- Dコース（毎月分配型、為替ヘッジなし）の基準価額は、期首の11,580円から800円下落し、期末には10,780円となりました。

上昇要因

主要投資対象である米国、日本、ドイツ、英国の国債利回りが低下（価格は上昇）したことなどが、基準価額の上昇要因となりました。また、保有する債券からの利息収入も、基準価額の上昇要因となりました。

下落要因

Aコース（限定為替ヘッジ）、Cコース（毎月分配型、限定為替ヘッジ）においては、円ヘッジに伴うヘッジコストなどが、基準価額の下落要因となりました。Bコース（為替ヘッジなし）、Dコース（毎月分配型、為替ヘッジなし）においては、主要投資対象通貨である米ドルやユーロが対円で下落したことなどが、基準価額の下落要因となりました。

■ 1万口当たりの費用明細

○Aコース（限定為替ヘッジ）

項目	当期		項目の概要
	2015年12月8日～2016年6月7日		
	金額	比率	
信託報酬 (投信会社)	62円 (30)	0.567% (0.270)	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 ファンドの運用、受託会社への指図、基準価額の算出、目論見書・運用報告書等の作成等の対価 購入後の情報提供、運用報告書等各种書類の送付、分配金・換金代金・償還金の支払い業務等の対価 ファンドの財産の管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(販売会社)	(30)	(0.270)	
(受託会社)	(3)	(0.027)	
売買委託手数料 (先物・オプション)	1 (1)	0.007 (0.007)	有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権口数
その他費用 (保管費用)	3 (0)	0.024 (0.004)	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数 海外資産等の海外保管銀行等に支払う保管・送金・受渡に係る費用 監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用 法律顧問・税務顧問への報酬、印刷費用、郵送費用、公告費用、格付費用、証拠金利息の調整金額、支払外国税等
(監査費用)	(0)	(0.003)	
(その他)	(2)	(0.017)	
合計	66	0.598	
期中の平均基準価額は10,935円です。			

○Bコース（為替ヘッジなし）

項目	当期		項目の概要
	2015年12月8日～2016年6月7日		
	金額	比率	
信託報酬 (投信会社)	54円 (26)	0.567% (0.270)	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 ファンドの運用、受託会社への指図、基準価額の算出、目論見書・運用報告書等の作成等の対価 購入後の情報提供、運用報告書等各种書類の送付、分配金・換金代金・償還金の支払い業務等の対価 ファンドの財産の管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(販売会社)	(26)	(0.270)	
(受託会社)	(3)	(0.027)	
売買委託手数料 (先物・オプション)	1 (1)	0.007 (0.007)	有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権口数
その他費用 (保管費用)	2 (0)	0.023 (0.003)	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数 海外資産等の海外保管銀行等に支払う保管・送金・受渡に係る費用 監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用 法律顧問・税務顧問への報酬、印刷費用、郵送費用、公告費用、格付費用、証拠金利息の調整金額、支払外国税等
(監査費用)	(0)	(0.003)	
(その他)	(2)	(0.016)	
合計	57	0.597	
期中の平均基準価額は9,496円です。			

(注1) 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料およびその他費用は、本ファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、本ファンドに対応するものを含みます。

(注2) 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

○Cコース（毎月分配型、限定為替ヘッジ）

項目	第162期～第167期		項目の概要
	2015年12月8日～2016年6月7日		
	金額	比率	
信託報酬 （投信会社）	60円 (28)	0.567% (0.270)	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 ファンドの運用、受託会社への指図、基準価額の算出、目論見書・運用報告書等の作成等の対価 購入後の情報提供、運用報告書等各种書類の送付、分配金・換金代金・償還金の支払い業務等の対価 ファンドの財産の管理、投信会社からの指図の実行等の対価
（販売会社）	(28)	(0.270)	
（受託会社）	(3)	(0.027)	
売買委託手数料 （先物・オプション）	1 (1)	0.007 (0.007)	有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権口数
その他費用 （保管費用）	3 (0)	0.029 (0.004)	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数 海外資産等の海外保管銀行等に支払う保管・送金・受渡に係る費用 監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用 法律顧問・税務顧問への報酬、印刷費用、郵送費用、公告費用、格付費用、証拠金利息の調整金額、支払外国税等
（監査費用）	(1)	(0.008)	
（その他）	(2)	(0.017)	
合計	64	0.603	
期中の平均基準価額は10,517円です。			

○Dコース（毎月分配型、為替ヘッジなし）

項目	第162期～第167期		項目の概要
	2015年12月8日～2016年6月7日		
	金額	比率	
信託報酬 （投信会社）	63円 (30)	0.567% (0.270)	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 ファンドの運用、受託会社への指図、基準価額の算出、目論見書・運用報告書等の作成等の対価 購入後の情報提供、運用報告書等各种書類の送付、分配金・換金代金・償還金の支払い業務等の対価 ファンドの財産の管理、投信会社からの指図の実行等の対価
（販売会社）	(30)	(0.270)	
（受託会社）	(3)	(0.027)	
売買委託手数料 （先物・オプション）	1 (1)	0.007 (0.007)	有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権口数
その他費用 （保管費用）	3 (0)	0.028 (0.003)	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数 海外資産等の海外保管銀行等に支払う保管・送金・受渡に係る費用 監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用 法律顧問・税務顧問への報酬、印刷費用、郵送費用、公告費用、格付費用、証拠金利息の調整金額、支払外国税等
（監査費用）	(2)	(0.014)	
（その他）	(1)	(0.011)	
合計	67	0.602	
期中の平均基準価額は11,163円です。			

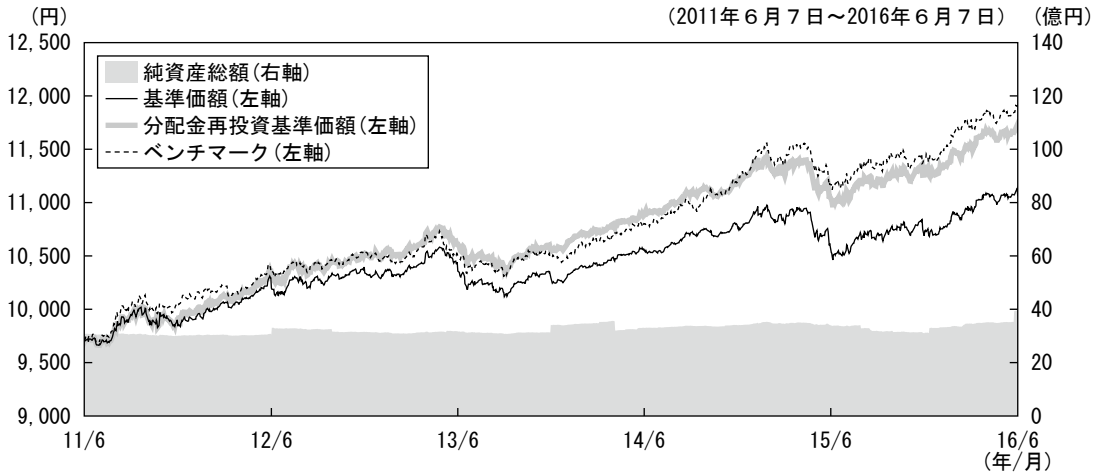
（注1）期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料およびその他費用は、本ファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、本ファンドに対応するものを含みます。

（注2）金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

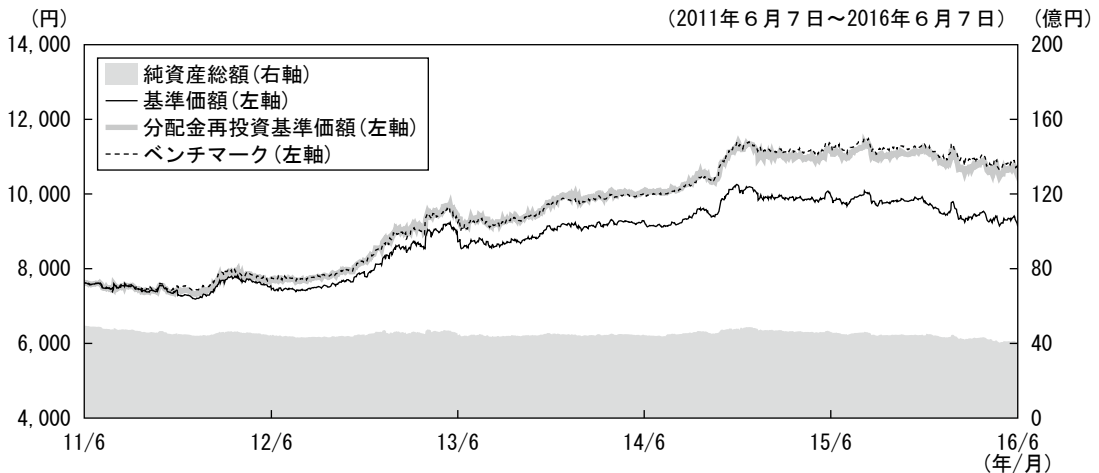
（注3）比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

■ 最近5年間の基準価額等の推移について

○Aコース（限定為替ヘッジ）



○Bコース（為替ヘッジなし）

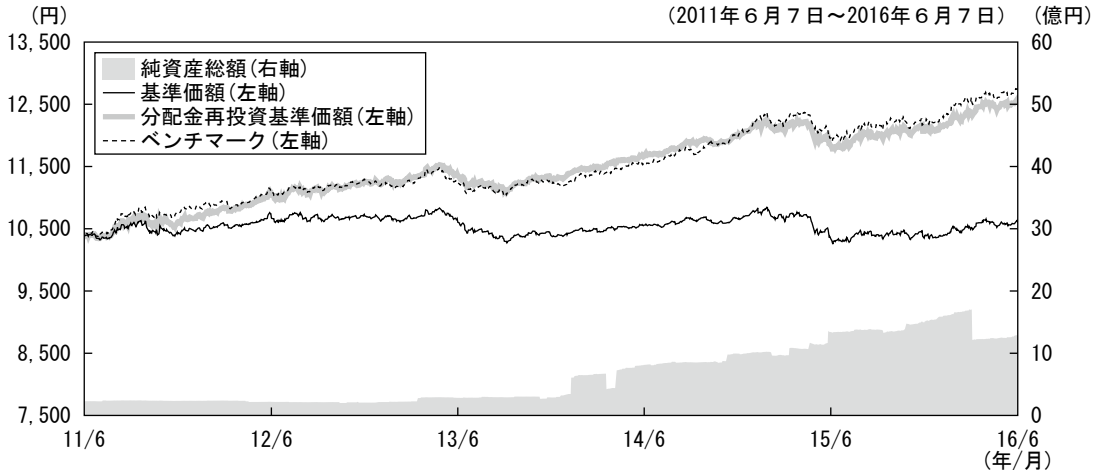


(注1) 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

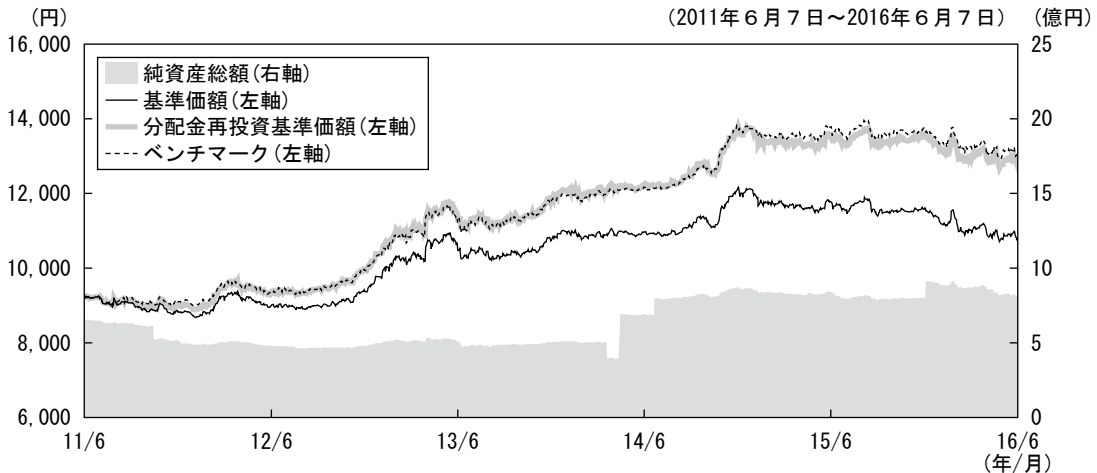
(注2) 実際のファンドにおいては、分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なるため、お客さまの損益の状況を示すものではない点にご留意ください。

(注3) 分配金再投資基準価額、ベンチマークは、2011年6月7日の基準価額を起点として指数化しています。

〇Ｃコース（毎月分配型、限定為替ヘッジ）



〇Ｄコース（毎月分配型、為替ヘッジなし）



- (注1) 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注2) 実際のファンドにおいては、分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なるため、お客さまの損益の状況を示すものではない点にご留意ください。
- (注3) 分配金再投資基準価額、ベンチマークは、2011年6月7日の基準価額を起点として指数化しています。

■ 最近5年間の年間騰落率

○Aコース（限定為替ヘッジ）

	2011/6/7 決算日	2012/6/7 決算日	2013/6/7 決算日	2014/6/9 決算日	2015/6/8 決算日	2016/6/7 決算日
基準価額（分配落）（円）	9,715	10,198	10,358	10,539	10,530	11,060
期間分配金合計（税引前）（円）	—	120	120	120	120	120
分配金再投資基準価額騰落率	—	6.23%	2.75%	2.93%	1.04%	6.20%
ベンチマーク騰落率	—	6.49%	1.52%	2.83%	3.40%	6.71%
純資産総額（百万円）	3,070	3,051	3,161	3,299	3,385	3,931

○Bコース（為替ヘッジなし）

	2011/6/7 決算日	2012/6/7 決算日	2013/6/7 決算日	2014/6/9 決算日	2015/6/8 決算日	2016/6/7 決算日
基準価額（分配落）（円）	7,621	7,448	8,724	9,195	9,916	9,129
期間分配金合計（税引前）（円）	—	260	260	260	260	260
分配金再投資基準価額騰落率	—	1.21%	20.86%	8.43%	10.64%	−5.39%
ベンチマーク騰落率	—	1.80%	19.06%	8.43%	13.41%	−5.24%
純資産総額（百万円）	4,893	4,395	4,427	4,420	4,584	4,020

○Cコース（毎月分配型、限定為替ヘッジ）

	2011/6/7 決算日	2012/6/7 決算日	2013/6/7 決算日	2014/6/9 決算日	2015/6/8 決算日	2016/6/7 決算日
基準価額（分配落）（円）	10,399	10,674	10,604	10,561	10,319	10,595
期間分配金合計（税引前）（円）	—	360	360	360	360	360
分配金再投資基準価額騰落率	—	6.22%	2.75%	3.09%	1.08%	6.27%
ベンチマーク騰落率	—	6.49%	1.52%	2.83%	3.40%	6.71%
純資産総額（百万円）	228	218	282	812	1,336	1,285

○Dコース（毎月分配型、為替ヘッジなし）

	2011/6/7 決算日	2012/6/7 決算日	2013/6/7 決算日	2014/6/9 決算日	2015/6/8 決算日	2016/6/7 決算日
基準価額（分配落）（円）	9,249	8,998	10,470	10,980	11,765	10,780
期間分配金合計（税引前）（円）	—	360	360	360	360	360
分配金再投資基準価額騰落率	—	1.26%	20.77%	8.46%	10.55%	−5.40%
ベンチマーク騰落率	—	1.80%	19.06%	8.43%	13.41%	−5.24%
純資産総額（百万円）	654	482	505	691	839	810

■ 投資環境について

<海外債券市場>

当期は、主要先進国の10年国債利回りは低下しました。

米国では、期の序盤は、原油価格の下落などを受けて世界的な景気減速懸念が高まったことなどから利回りは低下しました。その後は、米国の追加利上げをめぐる市場の思惑や原油価格の動向などに左右されながら概ね一進一退の展開となった結果、利回りは前期末を下回る水準で期を終えました。ユーロ圏では、期の前半は、2016年1月のECB（欧州中央銀行）定例理事会において、ドラギ総裁が3月の定例理事会で追加の金融緩和を実施する可能性を示したことなどを受けて、利回りは低下基調で推移しました。期の後半は、米国債と同様に概ね一進一退の展開となり、結局、利回りは前期末を下回る水準で期を終えました。

<外国為替市場>

外国為替市場では、米ドル、ユーロなどに対して円高が進みました。

米ドルは、原油価格の下落などを受けて投資家のリスク回避姿勢が強まり、相対的に安全資産とされる円を買う動きが優勢となったことなどから、期初から円に対して下落基調で推移しました。1月末に日銀がマイナス金利の導入を発表し、対円で上昇する局面もありましたが、イエレンFRB（米連邦準備制度理事会）議長が利上げへの慎重姿勢を示したことや、4月末に日銀が追加金融緩和の見送りを発表したことなどから円に対して下落基調が継続し、前期末比で円高米ドル安となる水準で期を終えました。ユーロも米ドルと同様、日銀がマイナス金利の導入を発表した局面などで一時的に円に対して上昇しましたが、期を通じて円に対して下落基調が概ね継続しました。

■ ポートフォリオについて <本ファンド>

Aコース（限定為替ヘッジ）およびCコース（毎月分配型、限定為替ヘッジ）はゴールドマン・サックス・世界債券オープンAコース（限定為替ヘッジ）マザーファンド（以下、「Aコース（限定為替ヘッジ）マザーファンド」といいます。）を、Bコース（為替ヘッジなし）およびDコース（毎月分配型、為替ヘッジなし）はゴールドマン・サックス・世界債券オープンBコース（為替ヘッジなし）マザーファンド（以下、「Bコース（為替ヘッジなし）マザーファンド」といいます。）を高位に組入れることにより、日本を含む世界各国の債券への分散投資を行い、信託財産の長期的な成長を図ることを目標として運用を行いました。また、Aコース（限定為替ヘッジ）およびCコース（毎月分配型、限定為替ヘッジ）では対円での為替ヘッジにより為替変動リスクの低減を目指しました。

<Aコース（限定為替ヘッジ）マザーファンド／Bコース（為替ヘッジなし）マザーファンド> 債券

期首における主要なポジションは、デュレーション戦略における金利上昇を見込んだ米国の短期化ポジションや、ユーロ圏の長期化ポジション、国別配分戦略におけるユーロ圏のオーバーウェイトに対する米国や英国のアンダーウェイト、セクター配分戦略における社債や非政府系MBS（不動産ローン担保証券）のオーバーウェイトなどでした。期末における主要なポジションは、デュレーション戦略における米国や日本の短期化ポジション、国別配分戦略におけるカナダやユーロ圏のオーバーウェイトに対する米国のアンダーウェイト、セクター配分戦略における社債のオーバーウェイトなどでした。

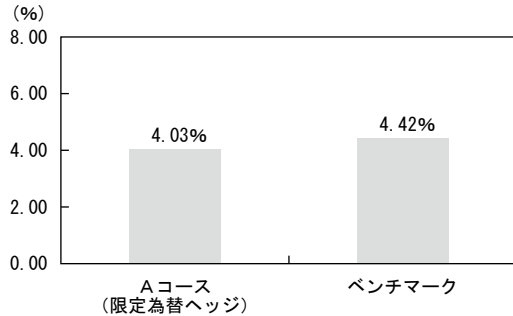
通貨

期首においては、ユーロや豪ドルなどをアンダーウェイトとする一方で、米ドルなどをオーバーウェイトとしました。期末においては、ユーロやカナダ・ドルなどをアンダーウェイトとする一方で、米ドルやスウェーデン・クローナなどをオーバーウェイトとしました。

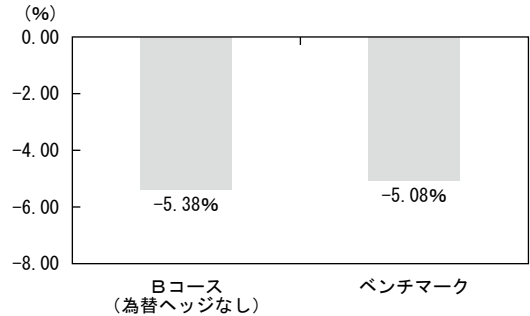
■ ベンチマークとの差異について

<当期の基準価額とベンチマークの対比（騰落率）>

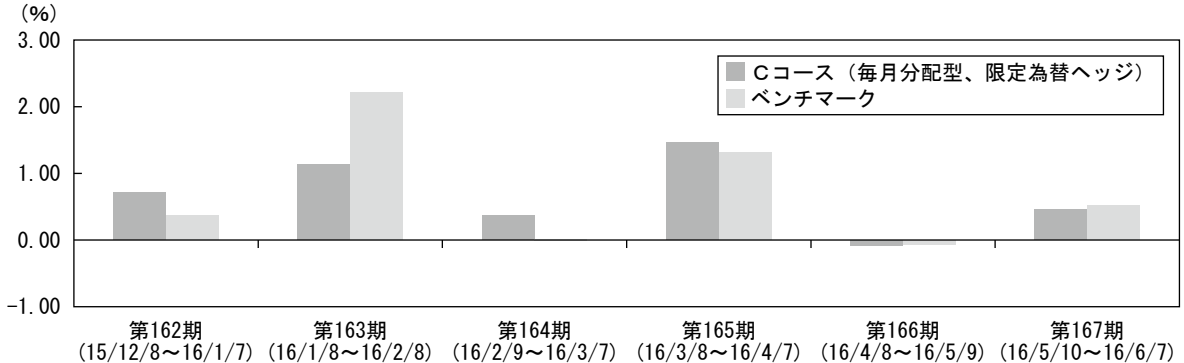
○Aコース（限定為替ヘッジ）



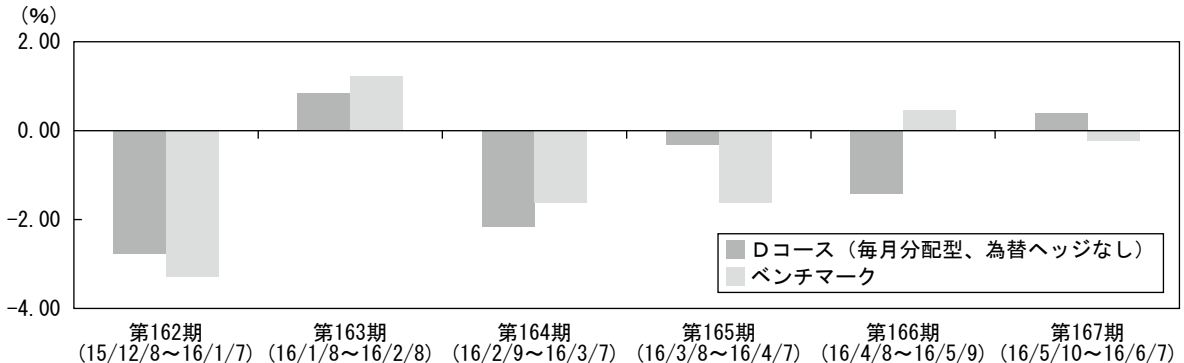
○Bコース（為替ヘッジなし）



○Cコース（毎月分配型、限定為替ヘッジ）



○Dコース（毎月分配型、為替ヘッジなし）



（注）各コースの基準価額の騰落率は収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

当期のAコース（限定為替ヘッジ）およびCコース（毎月分配型、限定為替ヘッジ）のパフォーマンス（分配金再投資ベース）は、それぞれ+4.03%、+4.14%となり、ベンチマーク（+4.42%）をいずれも下回りました。また、Bコース（為替ヘッジなし）およびDコース（毎月分配型、為替ヘッジなし）のパフォーマンス（分配金再投資ベース）は、それぞれ-5.38%、-5.38%となり、ベンチマーク（-5.08%）をいずれも下回りました。

当期においてはデュレーション戦略、セクター配分戦略、個別銘柄選択がプラス寄与となった一方、国別配分戦略、通貨配分戦略がマイナス寄与となりました。

デュレーション戦略では、ユーロ圏の金利デュレーションの長期化ポジションなどがプラス寄与となりました。セクター配分戦略では、社債の組入れなどがプラス寄与となりました。個別銘柄選択では、国債および金利スワップなどの銘柄選択がプラス寄与となりました。一方、国別配分戦略では、イタリアのオーバーウェイトなどがマイナス寄与となりました。また、通貨配分戦略では、主に英ポンドや豪ドルのオーバーウェイトがマイナス寄与となりました。

■ 分配金について

収益分配金（1万口当たり、税引前）については、分配方針および基準価額の水準などを勘案し、当期は、Aコース（限定為替ヘッジ）は60円、Bコース（為替ヘッジなし）は130円としました。また、第162期から第167期のCコース（毎月分配型、限定為替ヘッジ）およびDコース（毎月分配型、為替ヘッジなし）はそれぞれ各30円としました。収益分配金に充てなかった収益については、信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用を行います。

<分配原資の内訳>

○Aコース（限定為替ヘッジ）

（単位：円・％、1万口当たり・税引前）

項目	第36期
	2015年12月8日～2016年6月7日
当期分配金	60
（対基準価額比率）	0.540
当期の収益	60
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	2,589

○Bコース（為替ヘッジなし）

（単位：円・％、1万口当たり・税引前）

項目	第36期
	2015年12月8日～2016年6月7日
当期分配金	130
（対基準価額比率）	1.404
当期の収益	40
当期の収益以外	89
翌期繰越分配対象額	1,296

○Cコース（毎月分配型、限定為替ヘッジ）

（単位：円・％、1万口当たり・税引前）

項目	第162期	第163期	第164期	第165期	第166期	第167期
	2015年12月8日 ～2016年1月7日	2016年1月8日 ～2016年2月8日	2016年2月9日 ～2016年3月7日	2016年3月8日 ～2016年4月7日	2016年4月8日 ～2016年5月9日	2016年5月10日 ～2016年6月7日
当期分配金	30	30	30	30	30	30
（対基準価額比率）	0.288	0.285	0.285	0.282	0.283	0.282
当期の収益	13	18	30	30	2	30
当期の収益以外	16	11	—	—	27	—
翌期繰越分配対象額	1,692	1,681	1,690	1,813	1,787	1,796

○Dコース（毎月分配型、為替ヘッジなし）

（単位：円・％、1万口当たり・税引前）

項目	第162期	第163期	第164期	第165期	第166期	第167期
	2015年12月8日 ～2016年1月7日	2016年1月8日 ～2016年2月8日	2016年2月9日 ～2016年3月7日	2016年3月8日 ～2016年4月7日	2016年4月8日 ～2016年5月9日	2016年5月10日 ～2016年6月7日
当期分配金	30	30	30	30	30	30
（対基準価額比率）	0.266	0.265	0.272	0.273	0.278	0.278
当期の収益	7	17	9	8	5	14
当期の収益以外	22	12	20	21	24	15
翌期繰越分配対象額	2,369	2,357	2,337	2,315	2,292	2,277

（注1）「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。
また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

（注2）円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税引前）に合致しない場合があります。

（注3）当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税引前）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

今後の運用方針について

<本ファンド>

今後も引き続き各マザーファンド受益証券を高位に組入れることにより、日本を含む世界各国の債券への分散投資を行い、信託財産の長期的な成長を図ることを目標として運用を行います。また、Aコース（限定為替ヘッジ）およびCコース（毎月分配型、限定為替ヘッジ）では対円での為替ヘッジにより為替変動リスクの低減を目指します。

<本マザーファンド>

当社の投資戦略に関して、デュレーション戦略では、足元の米雇用統計において、非農業部門の雇用者数の増加が市場予想を下回っているものの、雇用情勢は概ね堅調であるとの見方から、米国の短期化ポジションを継続しています。また、バリュエーション面で割高感があるとの見方などから日本の短期化ポジションを構築しています。国別配分戦略では、金融政策の違いなどを背景に、ユーロ圏のオーバーウェイトに対する米国のアンダーウェイトを継続しています。通貨配分戦略では、ECBが量的緩和策を維持するとの見方からユーロのアンダーウェイトを継続し、堅調な国内経済が市場に織り込まれていないとの考えからスウェーデン・クローナのオーバーウェイトを構築しています。セクター配分戦略については、社債に対してやや強気の見方を維持していますが、クレジット・サイクルが終盤に差し掛かっている点などについては懸念材料として注視しています。

今後も引き続き運用の基本方針に基づいて運用を行います。

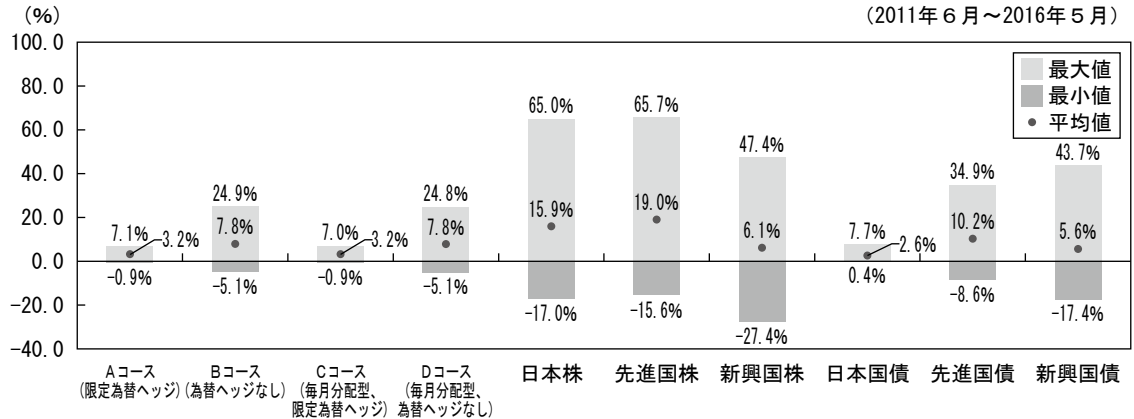
（上記見通しは2016年6月7日現在のものであり、今後見通しは変更されることもあります。）

本ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／債券						
信託期間	原則として無期限						
運用方針	日本を含む世界各国の債券を主要投資対象とし、中期的なデュレーションを有する世界の高格付けの公社債によって構成されるポートフォリオに重点をおいた、グローバルな投資プログラムを通じて、高いレベルのトータル・リターンをねらいます。世界の債券市場に分散投資することによりリスクの分散を図りますが、金利リスクは継続してとり続けていきます。						
主要投資対象	<table> <tr> <td>本ファンド</td><td> Aコース／Cコース：ゴールドマン・サックス・世界債券オープンAコース（限定為替ヘッジ）マザーファンドの受益証券 Bコース／Dコース：ゴールドマン・サックス・世界債券オープンBコース（為替ヘッジなし）マザーファンドの受益証券 </td></tr> <tr> <td>ゴールドマン・サックス・世界債券オープンAコース（限定為替ヘッジ）マザーファンド</td><td> ・日本を含む世界各国の債券 ・為替（為替ヘッジにより為替変動リスクの低減を図りつつ、別途為替アクティブ・ポジションを構築） </td></tr> <tr> <td>ゴールドマン・サックス・世界債券オープンBコース（為替ヘッジなし）マザーファンド</td><td> ・日本を含む世界各国の債券 ・為替（為替ヘッジは行わず、別途為替アクティブ・ポジションを構築） </td></tr> </table>	本ファンド	Aコース／Cコース：ゴールドマン・サックス・世界債券オープンAコース（限定為替ヘッジ）マザーファンドの受益証券 Bコース／Dコース：ゴールドマン・サックス・世界債券オープンBコース（為替ヘッジなし）マザーファンドの受益証券	ゴールドマン・サックス・世界債券オープンAコース（限定為替ヘッジ）マザーファンド	・日本を含む世界各国の債券 ・為替（為替ヘッジにより為替変動リスクの低減を図りつつ、別途為替アクティブ・ポジションを構築）	ゴールドマン・サックス・世界債券オープンBコース（為替ヘッジなし）マザーファンド	・日本を含む世界各国の債券 ・為替（為替ヘッジは行わず、別途為替アクティブ・ポジションを構築）
本ファンド	Aコース／Cコース：ゴールドマン・サックス・世界債券オープンAコース（限定為替ヘッジ）マザーファンドの受益証券 Bコース／Dコース：ゴールドマン・サックス・世界債券オープンBコース（為替ヘッジなし）マザーファンドの受益証券						
ゴールドマン・サックス・世界債券オープンAコース（限定為替ヘッジ）マザーファンド	・日本を含む世界各国の債券 ・為替（為替ヘッジにより為替変動リスクの低減を図りつつ、別途為替アクティブ・ポジションを構築）						
ゴールドマン・サックス・世界債券オープンBコース（為替ヘッジなし）マザーファンド	・日本を含む世界各国の債券 ・為替（為替ヘッジは行わず、別途為替アクティブ・ポジションを構築）						
運用方法・組入制限	①主としてマザーファンドの受益証券に投資し、原則として、その組入比率は高位に保ちます。 ②本ファンド及びマザーファンドにおける組入制限は下記のとおりです。 ・外貨建資産への投資については、特に制限を設けません。 ・デリバティブの利用はヘッジ目的に限定しません。						
分配方針	原則として毎計算期末（Aコース／Bコースは毎年6月7日および12月7日、Cコース／Dコースは毎月7日。休業日の場合は翌営業日。）に収益の分配を行います。投信会社が経費控除後の利子等収益及び売買損益（評価損益を含みます。）等の中から基準価額水準、市場動向等を勘案して分配金を決定します。						

(参考情報)

■ 本ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



○上記は、2011年6月から2016年5月の5年間における1年騰落率の平均値・最大値・最小値を、本ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示したものです。

○各資産クラスの指数

日本株：東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

先進国株：MSCI コクサイ・インデックス（配当込み、円ベース）

新興国株：MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円換算ベース）

日本国債：NOMURA-BPI 国債

先進国債：シティ世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

新興国債：JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ダイバーシファイド（円ベース）

- ・海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円ベースまたは円換算ベースの指数を採用しております。
- ・全ての資産クラスが本ファンドの投資対象とは限りません。
- ・本ファンドの騰落率は収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。
- ・騰落率は当期末の直近月末から60ヵ月遡った算出結果であり、本ファンドの決算日に対応した数値とは異なります。

本ファンドのデータ

■ 本ファンドの組入資産の内容（2016年6月7日現在）

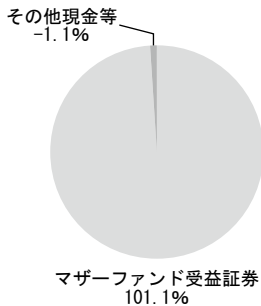
< Aコース（限定為替ヘッジ） >

○組入れファンド

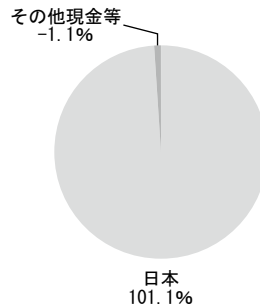
（組入銘柄数：1銘柄）

ファンド名	比率
ゴールドマン・サックス・世界債券オープン Aコース（限定為替ヘッジ）マザーファンド	101.1%

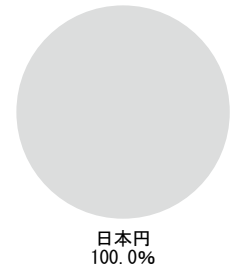
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



（注）上記の比率は全てAコース（限定為替ヘッジ）の純資産総額に対する割合です。

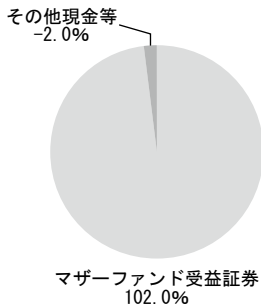
< Bコース（為替ヘッジなし） >

○組入れファンド

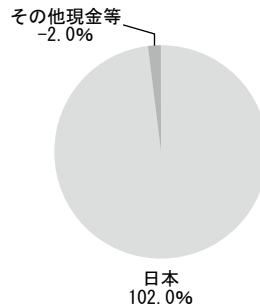
（組入銘柄数：1銘柄）

ファンド名	比率
ゴールドマン・サックス・世界債券オープン Bコース（為替ヘッジなし）マザーファンド	102.0%

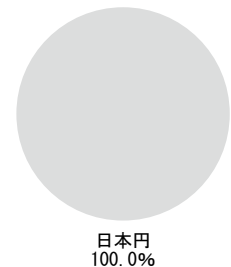
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



（注）上記の比率は全てBコース（為替ヘッジなし）の純資産総額に対する割合です。

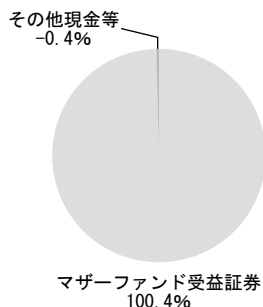
<Cコース（毎月分配型、限定為替ヘッジ）>

○組入れファンド

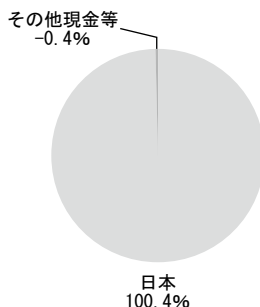
（組入銘柄数：1銘柄）

ファンド名	比率
ゴールドマン・サックス・世界債券オープン Aコース（限定為替ヘッジ）マザーファンド	100.4%

○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



（注）上記の比率は全てCコース（毎月分配型、限定為替ヘッジ）の純資産総額に対する割合です。

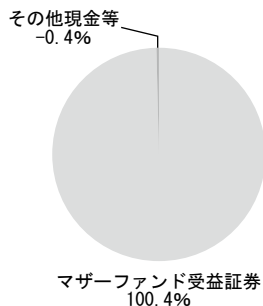
<Dコース（毎月分配型、為替ヘッジなし）>

○組入れファンド

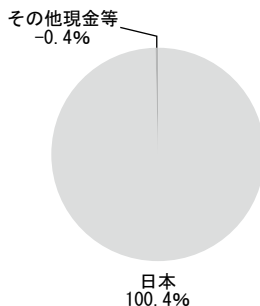
（組入銘柄数：1銘柄）

ファンド名	比率
ゴールドマン・サックス・世界債券オープン Bコース（為替ヘッジなし）マザーファンド	100.4%

○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



（注）上記の比率は全てDコース（毎月分配型、為替ヘッジなし）の純資産総額に対する割合です。

■ 純資産等

○Aコース（限定為替ヘッジ）

項目	第36期末
	2016年6月7日
純資産総額	3,931,235,655円
受益権総口数	3,554,327,720口
1万口当たり基準価額	11,060円

（注）期首元本額は2,900,774,346円、当作成期間中において、追加設定元本額は742,040,327円、同解約元本額は88,486,953円です。

○Bコース（為替ヘッジなし）

項目	第36期末
	2016年6月7日
純資産総額	4,020,202,886円
受益権総口数	4,403,780,522口
1万口当たり基準価額	9,129円

（注）期首元本額は4,501,518,934円、当作成期間中において、追加設定元本額は237,632,626円、同解約元本額は335,371,038円です。

○Cコース（毎月分配型、限定為替ヘッジ）

項目	第162期末	第163期末	第164期末	第165期末	第166期末	第167期末
	2016年1月7日	2016年2月8日	2016年3月7日	2016年4月7日	2016年5月9日	2016年6月7日
純資産総額	1,587,756,786円	1,653,833,852円	1,696,789,836円	1,229,643,405円	1,247,478,051円	1,285,145,650円
受益権総口数	1,527,782,348口	1,577,972,802口	1,617,591,185口	1,158,560,745口	1,179,558,169口	1,213,000,070口
1万口当たり基準価額	10,393円	10,481円	10,490円	10,614円	10,576円	10,595円

（注）当作成期首元本額は1,443,659,036円、当作成期間（第162期～第167期）中において、追加設定元本額は257,156,234円、同解約元本額は487,815,200円です。

○Dコース（毎月分配型、為替ヘッジなし）

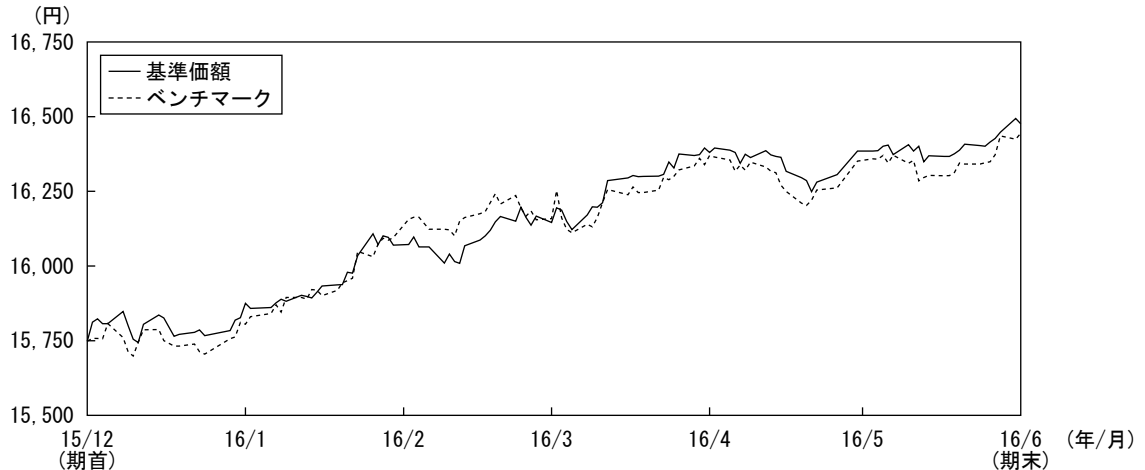
項目	第162期末	第163期末	第164期末	第165期末	第166期末	第167期末
	2016年1月7日	2016年2月8日	2016年3月7日	2016年4月7日	2016年5月9日	2016年6月7日
純資産総額	889,869,445円	892,855,772円	870,814,763円	865,662,733円	820,309,288円	810,704,941円
受益権総口数	792,563,169口	790,680,843口	790,349,024口	790,396,408口	761,905,217口	752,062,785口
1万口当たり基準価額	11,228円	11,292円	11,018円	10,952円	10,767円	10,780円

（注）当作成期首元本額は692,569,713円、当作成期間（第162期～第167期）中において、追加設定元本額は100,322,486円、同解約元本額は40,829,414円です。

組入上位ファンドの概要

ゴールドマン・サックス・世界債券オープンAコース（限定為替ヘッジ）マザーファンド（2016年6月7日現在）

○基準価額等の推移について（2015年12月8日～2016年6月7日）



（注1）基準価額等の推移についてはAコース（限定為替ヘッジ）マザーファンドの直近の計算期間のものです。

（注2）Aコース（限定為替ヘッジ）マザーファンドのベンチマークはJ Pモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス（グローバル）（円ヘッジ・ベース）です。

（注3）ベンチマークは、期首の基準価額を起点として指数化しています。

○1万口当たりの費用明細

項目	
売買委託手数料 （先物・オプション）	1円 (1)
その他費用 （保管費用） （その他）	1 (1) (0)
合計	2

（注1）1万口当たりの費用明細は組入れファンドの直近の計算期間のものです。

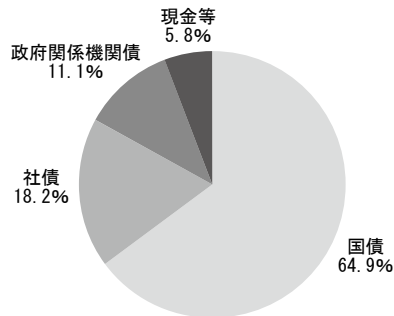
（注2）1万口当たりの費用明細は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。なお、費用項目については4ページ（1万口当たりの費用明細の項目の概要）をご参照ください。

○債券特性値

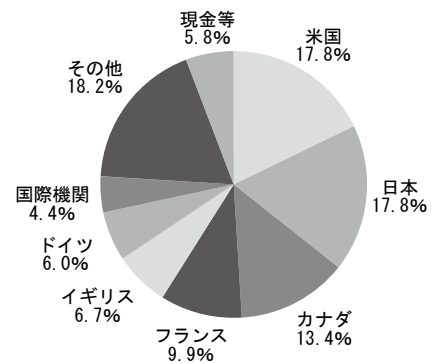
最終利回り : 0.56%

デュレーション : 7.46年

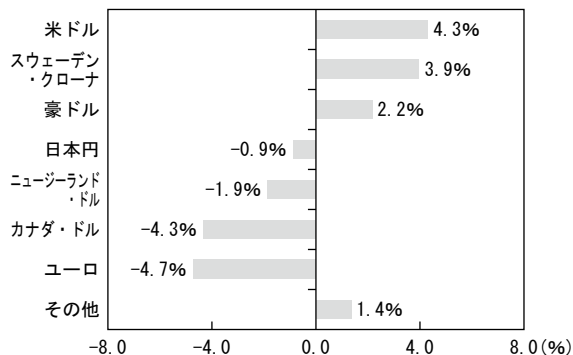
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



○組入上位10銘柄

(組入銘柄数 : 175銘柄)

	銘柄名	種別	通貨	構成比
1	カナダ国債 0.75% 2021年3月1日	国債	CAD	12.5%
2	第110回利付国債 (5年) 0.3% 2018年3月20日	国債	JPY	4.3%
3	第310回利付国債 (10年) 1% 2020年9月20日	国債	JPY	4.0%
4	アメリカ国債 0.75% 2018年2月28日	国債	USD	3.8%
5	スウェーデン国債 3.75% 2017年8月12日	国債	SEK	2.8%
6	第118回利付国債 (20年) 2% 2030年6月20日	国債	JPY	2.6%
7	ドイツ国債 1% 2019年2月22日	国債	EUR	2.4%
8	フランス国債 1.75% 2024年11月25日	国債	EUR	2.1%
9	ドイツ復興金融公庫 0% 2021年6月30日	政府関係機関債	EUR	1.9%
10	アメリカ国債 3.625% 2044年2月15日	国債	USD	1.6%

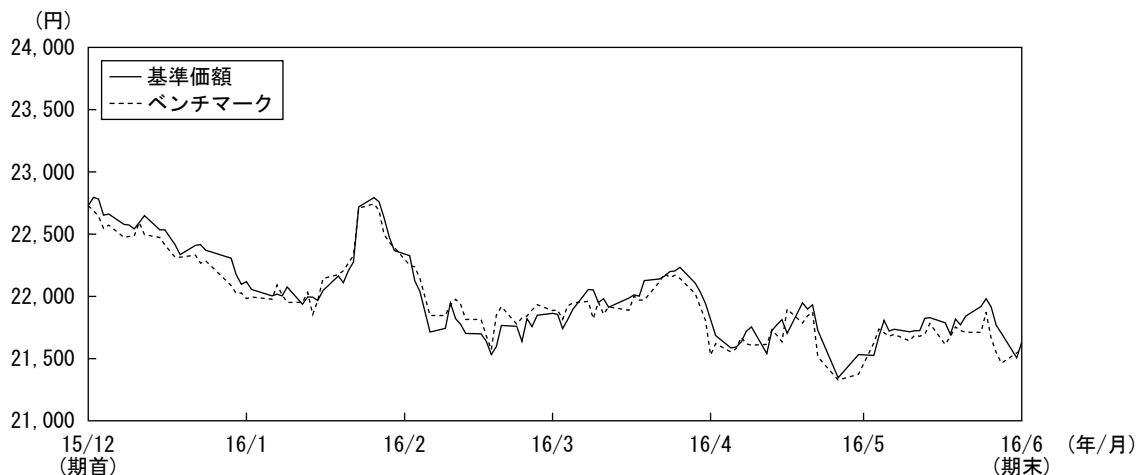
(注1) 債券特性値、資産別配分、国別配分、通貨別配分、組入上位10銘柄のデータはAコース（限定為替ヘッジ）マザーファンドの直近の決算日時点のものです。

(注2) 上記の比率は全てAコース（限定為替ヘッジ）マザーファンドの純資産総額に対する割合です。

(注3) 通貨別配分は、基本配分（日本円100%）からの乖離を示しています。したがって、日本円については基本配分との合計が実際のポジションとなります。

*組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）でご覧いただけます。

ゴールドマン・サックス・世界債券オープンBコース（為替ヘッジなし）マザーファンド（2016年6月7日現在）
○基準価額等の推移について（2015年12月8日～2016年6月7日）



（注1）基準価額等の推移についてはBコース（為替ヘッジなし）マザーファンドの直近の計算期間のものです。

（注2）Bコース（為替ヘッジなし）マザーファンドのベンチマークはJ Pモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス（グローバル）（円ベース）です。

（注3）ベンチマークは、期首の基準価額を起点として指数化しています。

○1万口当たりの費用明細

項目	
売買委託手数料 （先物・オプション）	2円 (2)
その他費用 （保管費用） （その他）	1 (1) (0)
合計	3

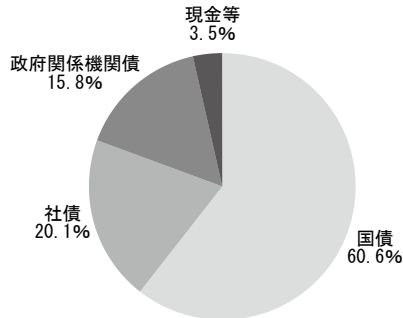
（注1）1万口当たりの費用明細は組入れファンドの直近の計算期間のものです。

（注2）1万口当たりの費用明細は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。なお、費用項目については4ページ（1万口当たりの費用明細の項目の概要）をご参照ください。

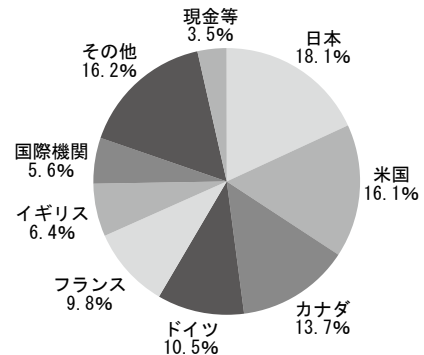
○債券特性値

最終利回り : 0.94%
デュレーション : 7.46年

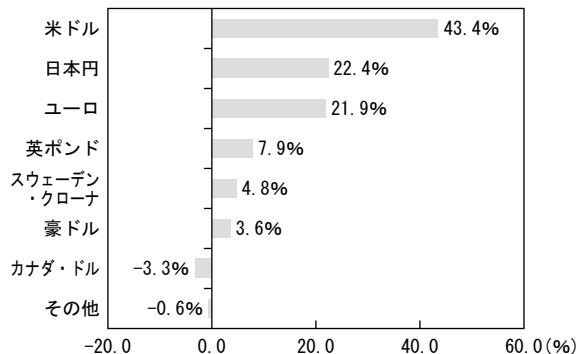
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



○組入上位10銘柄

(組入銘柄数 : 151銘柄)

	銘柄名	種別	通貨	構成比
1	カナダ国債 0.75% 2021年3月1日	国債	CAD	12.9%
2	ドイツ国債 1% 2019年2月22日	国債	EUR	5.8%
3	第310回利付国債 (10年) 1% 2020年9月20日	国債	JPY	4.2%
4	第110回利付国債 (5年) 0.3% 2018年3月20日	国債	JPY	3.7%
5	第92回利付国債 (20年) 2.1% 2026年12月20日	国債	JPY	3.5%
6	スウェーデン国債 3.75% 2017年8月12日	国債	SEK	2.4%
7	ドイツ復興金融公庫 1.125% 2018年8月6日	政府関係機関債	USD	2.2%
8	ドイツ復興金融公庫 0% 2021年6月30日	政府関係機関債	EUR	2.0%
9	スウェーデン国債 4.25% 2019年3月12日	国債	SEK	1.9%
10	フランス国債 1.75% 2024年11月25日	国債	EUR	1.8%

(注1) 債券特性値、資産別配分、国別配分、通貨別配分、組入上位10銘柄のデータはBコース (為替ヘッジなし) マザーファンドの直近の決算日時点のものです。

(注2) 上記の比率は全てBコース (為替ヘッジなし) マザーファンドの純資産総額に対する割合です。

*組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書 (全体版) でご覧いただけます。